

輝く！女性部＊青壮年部

女性部富士地区本部は14支部で構成され、約620人が楽しく、元気に活動しています。各支部では、体操や書道、絵手紙などさまざまなグループ活動を通じて生きがいを見つけて喜びを感じ、自分磨きや仲間づくりに取り組んでいます。

原田支部と富士支部は、全国でも珍しい女性部が主体となつて運営することも「食堂」を平成30年に開設。月一回、地元農産物をふんだんに使った家庭料理を地域住民に低価格で提供しています。将来を担う子どもたちへの食の提供、子育て世代の母親などのサポート、地域住民の交流の場づくりなどさまざまな役割を果たしています。現在は、手作り弁当を提供し、評判も良く人気があります。

コロナ禍で活動が制限される中、組織として「今できること」をしようとして「ペットボトルキャップの回収運動を始めました。発展途上

富士地区本部 人や地域をつなぐ 女性の輪



ペットボトルキャップをワクチン代へ



子ども食堂で弁当を手渡す女性役員

国の子どもたちにワクチン代を寄付しようと、役員が力を合わせ、回を重ねるごとに収集量が増え、組織のパワーが日々大きくなると共に、SDGsへの取り組みにも力を注いでいます。

青壮年部富士宮地区本部は、本年度新たに1支部が加わり、4支部53人の盟友で構成しています。

管内の富士宮市は日本一の標高差で多品目栽培ができるので、盟友も野菜農家や茶農家・酪農家など幅広く、支部の垣根を越えた全体活動にも力を入れています。

長年食農教育の一環として、地域の子どものための学習サポートのために、落花生・サツマイモなどの野菜栽培や餅つき、紅茶づくりの体験授業を開き、農業の楽しさや農家の仕事を継続的に伝えているほか、担い手農家として遊休農地を活用した栽培体験につなげたり、野菜の試験栽培に取り組んだりするなど、地域農業の可能性を生み出す活動もしています。

毎月最終土曜日に「ファーマーズマーケット」「宮々な」店頭で行っている農産物販売イベント「青年市」をはじめ農業祭や地域の祭り

富士宮地区本部 支部間を越えて団結 地域交流活動盛ん



農業祭で地場農産物をPR販売



青壮年部富士宮地区本部役員の皆さま

への出店は、地元産のおいしさと青壮年部活動を知ってもらう重要な機会となっています。

SDGs
©みんなのよい食プロジェクト

JA自己改革

～実はSDGs～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 地域の飲食店で米「するがの極」を使った料理を堪能



2 各店舗ではフェス専用のぼり旗を設置してPR

3 「ラブライブ！サンシャイン!!」とコラボした新パッケージの「するがの極」2kg

「するがの極フェス」開催 組合員の声に応じた 新たな挑戦

当JAは11月、県・沼津市・裾野市・長泉町・清水町と連携してブランド化を進める米「するがの極」(厳選きぬむすめ)の地域へのさらなる浸透を図ろうと「するがの極フェス」を開催しました。

同フェスは「するがの極」若手生産者の「地域でもっと愛されるお米にしたい」との思いから起案され、JAと共に話し合いを重ねて実施。地域の飲食店の協力により、より多くの消費者に「するがの極」を食べる機会を提供しました。

同フェスでは、地産地消への関心が高い地域の飲食店56店舗が参加し、「するがの極」を使った料理を提供しました。当JA・市町のSNS・ホームページなどでも告知し、米袋のパッケージデザインを沼津市が舞台のアニメ「ラブライブ！サンシャイン!!」とコラボしたパッケージへ一部変更しました。

「するがの極」の生産が始まった平成29年度当初は生産者5人、生産量は約2トンでしたが、6年目を迎える本年度は生産者84人、生産量は約158トンまで拡大。10年目となる令和8年度には400トンの生産量を計画しています。

営農担当者は「本イベントをきっかけに幅広い世代に知って食べてもらい『するがの極』のファンになってほしい」と話しました。

さらにフォロワー数が100万人を超える同アニメ公式ツイッターや公式動画でも配信・応援されるなど、全国に「するがの極」の名が発信されました。

同フェスを目当てに飲食店を訪れた来店者は、県内外合わせて1100人以上となり、コロナ禍で大変な思いをしている飲食店の活性化にも貢献しました。

「するがの極」の生産が始まった平成29年度当初は生産者5人、生産量は約2トンでしたが、6年目を迎える本年度は生産者84人、生産量は約158トンまで拡大。10年目となる令和8年度には400トンの生産量を計画しています。



※SDGsとは「持続可能な開発目標」という意味で、国際目標として国連で採択。17の目標を設定しています。